

平成 29 年度 第2次総合計画 施策マネジメントシート
(平成 28 年度の実績評価)

作成日 平成 29 年 7 月 19 日
更新日 平成 30 年 3 月 26 日

| | | | | | | |
|--------|-------|----|-----|----------------------------|---------|-------------|
| 総合計画体系 | 政策No. | 2 | 政策名 | ともに生き支えあうまちの形成 | 施策主管課 | 保健福祉部 健康増進課 |
| | 施策No. | 11 | 施策名 | 保健・医療の推進 | 施策主管課長名 | 坂場 徹 |
| 施策関連課名 | | | | 国保年金課、芦安窓口サービスセンター、消防本部管理課 | | |

1 施策の目的

| | |
|-------------------------------|--|
| ① 対象(誰、何を対象としているのか) * 人や自然資源等 | ② 意図(この施策によって対象をどう変えるのか) |
| 市民 | 市民が自発的に健康診断や予防接種をうけて自分の健康に関心がもてるようになる。また、健康教育や栄養指導を積極的に受診するなどして自分の健康は自分で守るようになる。 |
| 対象の大きさを表す指標 ⇒ 2-① 対象指標 | 意図の達成度を表す指標 ⇒ 2-② まちづくり指標 |

2 指標の推移、指標設定の根拠等

| 指標区分、指標名 | | 単位 | 数値区分 | 基本計画現況値 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | |
|----------------------|---------------------------------|---|------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--|
| ① 対象指標 | ア 人口 | 人 | 見込み値 | | 72,644 | 72,322 | 72,001 | 71,680 | 71,359 | 71,038 | |
| | | | 実績値 | 72,963 | 72,715 | 72,305 | 72,018 | | | | |
| | イ | | 見込み値 | | | | | | | | |
| | | | 実績値 | | | | | | | | |
| | ウ | | 見込み値 | | | | | | | | |
| | | | 実績値 | | | | | | | | |
| ② まちづくり指標 | A 特定健診の受診率 | % | 目標値 | | 51.5 | 54.4 | 57.2 | 60.6 | 60.6 | 60.6 | |
| | | | 実績値 | 49.5 | 50.8 | 53.0 | 54.2 | | | | |
| | B 安心して医療を受けられることができると感じている市民の割合 | % | 目標値 | | 30.0 | 48.0 | 48.5 | 49.0 | 49.5 | 50.0 | |
| | | | 実績値 | 47.4 | 37.6 | 41.1 | 40.8 | | | | |
| | C 高齢者のインフルエンザワクチン接種率 | % | 目標値 | | 73.0 | 62.2 | 62.4 | 62.6 | 62.8 | 63.0 | |
| | | | 実績値 | 61.7 | 63.4 | 62.5 | 62.2 | | | | |
| | D 食に関する研修会等への参加人数 | 人 | 目標値 | | 未設定 | 6,360 | 8,100 | 8,100 | 8,100 | 8,100 | |
| | | | 実績値 | 6,160 | 8,347 | 8,081 | 9,102 | | | | |
| | E 医療機関に4回以上照会をおこなった救急件数 | 件 | 目標値 | | 未設定 | 100 | 97 | 94 | 91 | 88 | |
| | | | 実績値 | 107 | 108 | 113 | 101 | | | | |
| まちづくり指標設定の考え方 | | <p>A: 生活習慣病予防に関する成果を示す。 【受診者数÷対象者数(国保に加入している40歳~74歳)×100】 B: 医療提供体制に対する市民の安心感を示す。 【市民アンケートの『医療機関の救急医療体制に満足していますか』において、「満足している」「やや満足している」と回答した人の割合】 C: 感染症予防の効果を示す。 【予防接種実施者数÷インフルエンザ接種対象者(10月1日現在)×100】 D: 健康保持や生活の質の向上への支援に関する成果を示す。 【食生活改善推進員が開催した教室に参加した市民の数】 E: 救急医療体制の充実度を示す。 【救急出動で、医療機関に受入の照会を4回以上行った件数】</p> | | | | | | | | | |
| 目標値の設定の根拠(前提条件や考え方等) | | <p>A: 市特定診査等実施計画に基づき29年度目標値60.6%を設定 B: 現行の救急医療確保対策事業の啓発や救急医療の適正利用に関する啓蒙を行い、5年間で約3%の上昇を見込み目標値を設定 C: 5年間で約2%の増加を見込み目標値を設定 D: 研修内容の向上を目指し、H27年度実績(8,081人)の参加者を今後も目標として設定 E: H24年を基準に、5年間で約20%の減少を目標値として設定</p> | | | | | | | | | |

3 予算等の推移

※当初予算額。骨格予算の年度は6月補正後

| 区分 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 |
|----------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------|
| 関連事業本数 | 59 | 57 | 64 | 64 | 68 | | |
| 関連事業予算額(単位:千円) | 1,219,429 | 1,228,403 | 1,983,574 | 2,102,102 | 2,191,995 | | |
| (予算額の内訳) | 国庫支出金 | 33,656 | 30,837 | 36,326 | 74,303 | 75,411 | |
| | 県支出金 | 237,575 | 232,944 | 334,547 | 361,660 | 361,492 | |
| | 地方債 | 0 | 0 | 0 | 0 | 61,900 | |
| | その他 | 264 | 1,070 | 8,052 | 9,721 | 10,418 | |
| | 一般財源 | 947,934 | 963,552 | 1,604,649 | 1,656,418 | 1,682,774 | |

4 評価結果(施策の有効性評価)

| | | |
|---|--|---|
| ① 目標達成度評価(目標値と実績値との比較) <input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった | | ※左記の理由 特定健診の受診率については、若干目標値を下回るものの、昨年度を上回る受診率となっている。医療提供体制と高齢者のインフルエンザワクチンの接種率については、27年度と同数値となっている。4回以上照会を行った救急件数については近年ではもっとも少ない回数であり、食育に関する研修会への参加者数は1,000人以上伸びている。 |
| ② 時系列比較(過去3ヶ年程度の比較) <input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した | | ※左記の理由 特定健診受診率は向上したものの、受診者に対しての特定保健指導実施率の向上が目標となる。医療提供体制においては、市民ニーズが年々高まっている中で同数値は向上に値する。食を通じての生活習慣病予防の教室、親子料理教室については、食生活改善推進委員の活動をチーム別けして取り組んだことが、食に対する市民意識の向上に繋がり、多くの参加者の増を得ることが出来た。救急医療体制も向上している。 |
| ③ 他自治体との成果実績値の比較 <input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である <input checked="" type="checkbox"/> どちらかと言えば高い成果水準である <input type="checkbox"/> ほぼ同水準である <input type="checkbox"/> どちらかと言えば低い成果水準である <input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である | | ※左記の理由 特定健診の受診率は、県内市の中では1~2の高さで推移している。医療提供体制においては、救急医療をはじめ、予防接種事業についても他自治体、中巨摩医師会と連携を図っている。 |
| ④ 住民の期待する成果水準との比較 <input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である <input type="checkbox"/> どちらかと言えば高い成果水準である <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準である <input type="checkbox"/> どちらかと言えば低い成果水準である <input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である | | ※左記の理由 医療福祉に対する市民ニーズは多種多様化、困難化しつつある中、住民の期待する医療提供体制については下回るが、その他は成果目標値に沿った数値が現れていることは、全体的にはほぼ同水準の成果と考える。医療体制の充実に対しての数値は、体制自体は市内新規開業医も増え、事業も他自治体とともに中巨摩医師会との連携の中での実施である。 |

5 まとめ(課題の抽出とその解決に向けた取り組み)

| 施策の課題 (現状の問題点) | 課題を解決し、施策の実現を図るための取り組み方針 | |
|---------------------------|---|--|
| | 課題解決の方向性 | 具体的な改善策・取り組み内容 |
| 人間ドック希望者の増 | 人間ドック実施期間の延長、受入機関の新規参入、申し込み期間の拡大、受診者補助の定額制導入、受診年齢の拡大等について検討する。 | 年々人間ドック希望者が増えつつある中で、医療機関との予約が取りづらい状況が続いている。新規医療機関との契約、実施期間の延長、医療機関への予約申し込み期間の拡大等の検討、また現在、市民は定額の負担金で受診しているが、医療機関それぞれ金額が相違していることから、受診者への定額の補助金に変更する方向で検討・調整する。併せて、現行74歳までの対象年齢の拡大についても検討する。変更内容については医師会とも平行して協議していく。 |
| 特定検診(国保)の40代~50代男性の受診率の低迷 | 健康であることは自身のみならず家族、地域の財産であることから、自己の健康状態を把握し早期からの予防、早期治療の重要性の理解を深めてもらう。 | 健康無関心層へのアプローチとして「幸せ実感!南アルプス市健康リーグ」を展開し、JAや薬剤師会、愛育会や地域団体等から健診参加を誘導していく。健康づくり推進協議会及び健康を考える会(医師・歯科医師会、保育士、スポーツ推進員など)諸団体の中で課題を共有してもらい、若いときからの健康管理の重要性を説明する。検診未受診者へ直接通知を送る。健康フェスタを通じて健康の必要性を周知する。 |
| 生活習慣病の割合が高い | 高血圧、糖尿病、慢性腎臓病などの生活習慣病の見直しと重篤化の予防 | 健康増進計画・食育推進計画、データヘルズ計画から、疾病の予防、重篤化の予防の必要性を認識してもらう。保健師及び管理栄養士からの特定健診受診者への指導を徹底するとともに健康教育の開催や重症化予防に取り組む。また食生活改善推進委員会による食からの生活習慣病予防教室を実施していく。 |